

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【七里中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞令和6年度の全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査において、全教科の偏差値が50を下回っている。 ＜指導上の課題＞反復や振り返りの時間を十分に確保できていない。	⇒ 授業中に基本的な漢字・計算・英単語・重要語句の反復練習をする。その成果を見るために、授業の中で確認テストをする【小単元毎にスモールステップで実施】。
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞令和6年度の全国学力・学習状況調査およびさいたま市学習状況調査において、全教科の偏差値が50を下回っている。 ＜指導上の課題＞知識の定着に時間がかかるため、思考力を育む時間を十分に確保できていない。	⇒ 授業において、生徒が課題に対して情報を収集し、グループで共有し、意見を交換する活動を通じて、自分の考えを理由とともに説明する時間を設ける【週に1度以上】。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	調査結果
思考・判断・表現	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、誤って書かれている漢字を見付けて修正すること、言葉の意味として適切なものを選択することができていた。数学では、素数をすべて選ぶことや、相対度数を求めることができていたが、外角の大きさを求めることなどの基礎的な内容に苦手意識を抱えている生徒が多かった。	
思考・判断・表現	国語では、スライドを使ってどのように話しているのかを説明することや、発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるための助言などの、自分の考えに苦手意識を抱えていた。数学では、説明する問題に苦手意識を抱えている生徒が多く、数と式・図形・関数など幅広い範囲で課題がみられた。	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	授業中に基本的な漢字・計算・英単語・重要語句の反復練習をし、確認テストをすることができた。
思考・判断・表現	B	生徒の考えを、グループで共有し、意見を交換する活動を行うことができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)